

中国・北京市の幼児園・中国美術館訪問報告：北京市西城区内公営「北海幼児園」及び「第1回中国油画学会展」視察報告

著者	野崎 嘉男，藤原 等，白佐 俊憲
雑誌名	北海道女子大学短期大学部研究紀要
巻	33
ページ	209-224
発行年	1997
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00001005/

中国・北京市の幼稚園・中国美術館訪問報告 ——北京市西城区内公営「北海幼稚園」及び「第1回中国油画学会展」視察報告——

Report on a Visit to a Kindergarten and Chinese Museum in Beijing City, China

野 崎 嘉 男	藤 原 等	白 佐 俊 憲
Yoshio NOZAKI	Hitoshi FUJIWARA	Toshinori SHIRASA

I は じ め に

このレポートは、1996年9月8日～9月17日の10日間、報告者3名が「北海道女子短期大学特別研究費規程」による平成8年度の「海外研究費」の支給を受けて北京市で実施した「中華人民共和国における教育・文化事情視察」の研修成果の一部を、第2報として報告するものである。第1報は白佐が、第3報は藤原が主になり、本誌第33号に同時に報告する。

ここでは学前教育機関である幼稚園（日本でいう幼稚園）の視察結果「北京市西城区内公営『北海幼稚園』の概要」に併せて、「今日の中国における学前教育〈幼稚園〉の概観」についてもまとめてみた。北海幼稚園で聴取した資料と日本国内の少ない文献、現地で購入した限られた専門図書を参考にまとめたものである。不十分な点があることをお断わりしておきたい。

また、文化事情視察の目的も併せてもつ研修であり、北京市中国美術館で開催されていた第1回中国油画学会展を鑑賞する機会にも恵まれたので、この「油画学会展の概要」についてもまとめてみた。中国の現代油画美術の動向の一端を、会場での鑑賞結果とこの展覧会の作品集に掲載されている諸資料を中心に紹介する。

II 北京市西城区内公営「北海幼稚園」の概要

1. 所在地域

この幼稚園は、北京市の中心部にある天安門、故宮博物院の西北に位置する風光明媚な北海公園の北東にある。北海公園は市内の観光コースにもなっている緑地であり、北海という池を中心に造営されていて、遼・金・元・明・清朝の5代にわたる皇帝の御苑であったところとしても有名なところである。北京駅からは約6kmほどのところにある。

2. 幼稚園の所管と種類

刘汝平^{リッズピン}副園長の説明によると、北海幼稚園は公営の教育委員会立の全託（全寮制）幼稚園の一つである。全託とは、月曜日の朝に子供を預け、土曜日の午後に子供を受けとる制度である。したがって園児は一週間、親元を離れて幼稚園の寮で全ての生活を行うことになる。ただし、北海幼稚園の場合は月曜日の朝に子供を預け、金曜日に子供を受けとる制度になっている。これに対して一日保育を日託という。1952年の規定では、8時間から12時間の保育内容になって

いる。そして教育委員会立の幼稚園の中で実験幼稚園や模範幼稚園になっているものが多いとのことであった。北海幼稚園は模範幼稚園の一つで、重点幼稚園、体育幼稚園でもある。

3. 歴史・伝統

北海幼稚園は、新中国が成立した 1949 年に設立された公営(教育委員会立)の幼稚園で 47 年の歴史がある。

刘汝平副園長も強調していたが、清朝の後妃が祭祀を行った親蚕壇^{しんさんだん}などの古代の伝統ある建物と現代の新しい建物とがみごとに調和した幼稚園である。また、北京市内でも保育内容では評価の大変高い幼稚園であり、設立当時から広範囲からの入園希望が多く全ての希望者を受け入れられない状況にあるとのことであった。

4. 園児数と教職員数

北海幼稚園の現在の収容数は 3 歳児から 6 歳児まで 520 人、クラス数は 15 クラスである。教職員は 100 人で、このうち管理職員は園長が 1 人、副園長が 1 人、主任が 4 人、人事事務担当者が 1 人、常勤の小児科担当医師が 4 人である。そして、教員が 30 人（主任含む）、保育員が 30 人、コンピュータ教員が 2 人、園事務室が 3 人、寮担当の夜間保育担当者が 9 人、食堂管理人が 1 人、食堂係が 8 人、購買係が 1 人、会計係が 2 人、保管係が 1 人、菓子技術員が 1 人、資料員が 1 人と他は清掃担当者と門の守衛となっている。100 人の教職員中、男性はわずか 4 人である。

園内では音楽遊戯活動と美術制作活動を行っている教室、ホールでの自由遊びなど実際に先生が園児を指導している現場を視察したが、20 代と思われる先生も若干名見受けたが印象としては 40 代から 50 代と比較的年齢が高い先生が多いように感じた。説明や視察案内を担当した 1 人の主任と 2 人の先生方もいずれも 30 年以上の教員歴をもっているとのことで、教員構成は全体的にベテラン中心の安定した指導を行っているとの印象を受けた。

5. 園舎・園庭

2 万 m² の広大な園敷地内に、3 の歴史・伝統のところでもふれたとおり、清朝の後妃が祭祀を行った親蚕壇などの古代建築物と現代の建築物を機能的に融合させた園舎が、多くの樹木と緑豊かな園庭と見事に調和し、極めて恵まれた環境を有していることにまず驚かされた。

写真 1 の「北京北海幼稚園」という大きな園名表札を掲げた朱塗の大門（正門にあたるところ）を抜けるとすぐ左手に「業務相談室」と表示された間口 4 m 程度の小さな事務所があり、ドア横のガラスに〈幼教用品〉〈智力玩具〉と書いてある。父母を対象にしての幼児教育用品などの購買である。ここで園内敷地内への立ち入りを管理しているようであった。

この大門を抜けて少し進むと、また 4 m を超



写真 1 北海幼稚園大門前で。右から白佐・藤原・野崎

える茶色の高い塀が回らされ、アーチ形の門があり、ここを通り抜けると写真2のような広い園庭と園舎が見えてくる。

園舎は、落ち着いた感じの切り妻屋根形を主とした鉄筋コンクリート造りの2階建ての2棟の大きな建物を中心として、広い園庭を囲むように1階建ての煉瓦造りの建物などが数棟並んでいる。屋根は青緑系色の瓦ぶきで、白とベージュ色の壁とがよく調和している。中心の管理

棟を含む二つの建物は1階の玄関口とは別に、外側に直接2階へ通じる階段が設置されており、この階段の壁には明るい空、桃、赤、白、青の5色で帯状に美しく彩色され、古典的歴史を感じさせる園内の雰囲気の中でその部分だけが近代的なイメージを与え、印象的である。また、清朝の後妃が祭祀を行った古代建築の親蚕壇は児童楽園の名称で幼児活動の場所として活用されている。大きな樹木や小さな灌木が沢山ある広い園の敷地のほぼ中央部にグラウンドがある。写真2の中央から左側に見える場所がそれである。

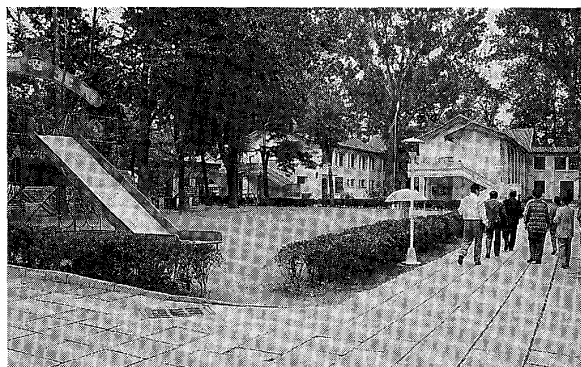


写真2 広々とした園庭・園舎とグラウンド

6. 園舎内の諸施設・設備

① 応接室

我々が視察した範囲の園舎内は土足であったが、園外も園内も清掃が行き届き全体的に清潔な感じである。写真3は最初に通された応接室であるが、床は緑色のカーペットが敷かれ、その上に豪華な絨毯が敷かれている。壁の一面は大きな鏡張りで、天井の照明器具は小型のシャンデリア風のシンプルなデザインのものが4基取り付けられている。一方の壁には大きめのガラスケースが置かれ、中には大小の壺や人形が



写真3 応接室で刘汝平副園長から説明を聞く

きれいに整頓されて並べられ、ケースの上には動物のぬいぐるみが置かれている。また他の壁には花を題材にした中国画の額や桃を題材にした掛け軸が掛けられている。ソファなどの什器類も立派なものが整っている。その他、エアコンや冷蔵庫なども備え付けられてあり、来客の接遇には十分な設備となっていた。

② 教室（その1）〈音楽遊戯活動中〉

この教室は管理棟から少し離れた別棟1階にあり廊下伝いでなく、外から直接土足で入れる造りになっている。広さは見たところ約65㎡程度で、床は着色コンクリートで写真4のように約30cm角のカラーゴム製マットのつなぎ式の床材を中心に敷いてあり（約3m30cm×2m70cm程度の床平面ステージという感じ）、その上で園児が遊戯をしていた。



写真4 音楽遊戯活動中の教室・拳法の遊戯

教室内の壁はコンクリートの塗装仕上げで、床から約1 m 30 cm ほどまで淡い空色が塗られてあり、その上の部分の壁と天井全体は白で統一されて教室は明るく清潔な感じである。照明は天井からの吊り式長尺蛍光灯（2本組）が6基取り付けられている。

その他の設備では正面に黒板があり、その下には木製の引き戸式の幅約3 m ほどの棚が置いてある。その棚の左脇に木製の長机が置かれ、右側にはピアノが置いてある。また、時計、扇風機、テレビ、カセット（携帯用）などが備えられている。

机は鉄製の脚でデコラ張りの天板（約75 cm×1 m 50 cm 程度）を取り付けたものが10基備えてある。椅子はごく普通の木製造りのものが30数個備えてある。

教室内の飾り的なものでは、日本の幼稚園の教室同様、壁に色画用紙や色紙などで花や木、動物、お城（建物）などが可愛くレイアウトされている。そして、後部の壁には子供たちが制作した絵や折紙の作品が貼られてある。小学校で見た校訓的なものやスローガンのものは見られなかった。この教室では音楽遊戯活動を行っていた。

③ 教室（その2）〈美術制作活動中〉

この教室は管理棟の1階にあり、廊下を通して入る。床はフローリング張りであるが、大きさや造り、壁の塗装、照明器具、机、椅子、備品などは先に見た教室（その1）とほぼ同じである。ただ、教室内の飾り的なものは棚の上に立体作品を置いたり、棚から窓までの狭い壁面を効果的に使って子供たちの造形作品を展示したり、天井までの高さまでを使って鳥が飛びたっていく情景をイメージしたレイアウトに注目した。それぞれ、クラス担任が創意工夫していることが分かる。この教室では美術制作活動を行っていた。

④ ホール

ホールは管理棟の1階にあり、約200 m² ほどの広さがあり正面にはステージが設置されている。床は約1 m 角の焦茶色のコンクリート板を敷き詰めたように見える。ステージ上はフローリング張りで、赤いカーペットが中央に敷かれている。ホール全体の壁色は教室と同様、淡い空色と白で塗装されていて、ここも明るく清潔な感じである。壁側一方には木製の白いベンチが並べられている。

遊具類では園児が乗って遊ぶ写真5のようなプラスチック製（赤色、青色）の自転車のサドルを大きくしたような形にハンドルを取り付けた乗り物がまず目についた。園児が乗って楽しそうに走り回っている。ホールの奥には写真6のようなプラスチック製のブロックを丁度プールのように四角く囲んだ大きな箱が造ってある。高さは約50 cm ほどある。その中にテニスボール大の赤、青、緑、黄、桃、白など各色のプラスチック製（触ってみたら、ある程度の硬

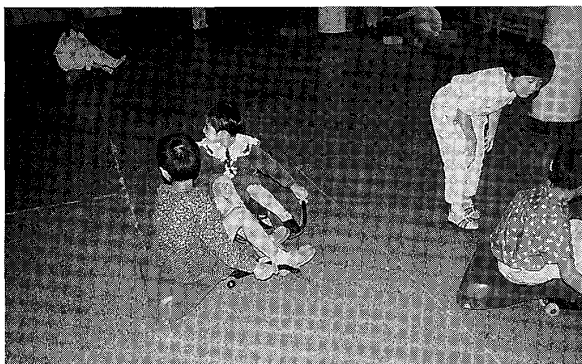


写真5 遊具に乗って遊ぶ園児

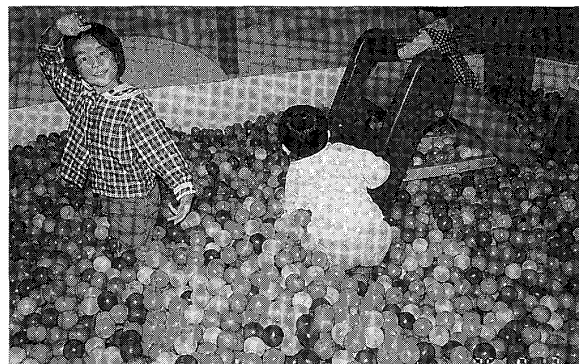


写真6 ホール内にある遊具の1つ・プラスチックの玉遊び

さがあるが軽い)の玉があふれるほど入っている。中には小さなすべり台もある。園児は潜ったり、埋まったり、はいずり回ったりして楽しそうに遊んでいる。また、どこでも見られるプラスチック製の大型の積み木が相当数備えられている。特に中国らしさを感じ、注目したのは万里の長城の積み木であった。

⑤ ベッドルーム

1室だけ見せてくれたベッドルームは管理棟の1階にあり、写真7のように約130㎡ほどの大教室のような部屋で、淡い桃色の木製子供用ベッドが32人分整然と並べられている。布団の色などは統一されてはいない。赤、青、黄、緑などいろいろあり、ベッドの上にきちんと畳んで置かれ、華やかな感じさえる。壁側には木製のロッカーが備えつけられている。中は見ることはできなかったが、園児の日常生活に関する物品が収納されているようだ。床も室内塗装も教室やホールと同様な造りや色である。



写真7 整頓されているベッドルーム

520人の園児を収容するためには、これと同様の部屋が15室から17室ほど必要になるが、視察を許された範囲では他の部屋を見ることができなかった。

7. 野外遊具

写真8のように、一見遊園地を思わせるような比較的大型の遊具施設類が数多く設置されている。水遊びができる大きな噴水などもある。素材もコンクリート、プラスチック、木、鉄など様々である。中でも目を惹いたのは美しく彩色されたきのこ形のコンクリート製の小屋である。造りもしっかりとしていて、危険性はない。園児が童話の世界の主人公に瞬時になれる夢が

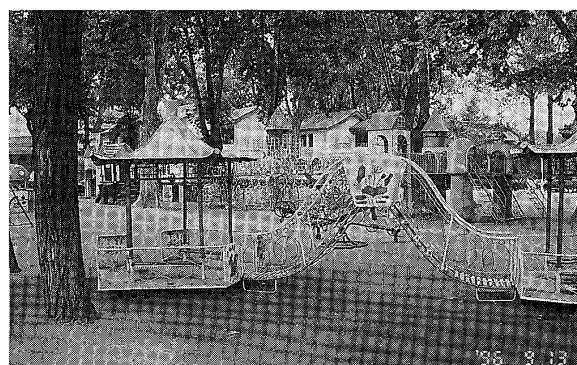


写真8 遊園地のような野外遊具施設

大きく膨らむ遊具だと感じた。全体的には、球形や円錐形、四角錐などの屋根の小さな高床式小屋風のものが目についた。小屋へ昇る階段や小屋から小屋へ通じる通路は鉄製のてすりで囲まれていて、安全な造りになっている。すべり台は青く塗装された鉄製で、高さが約3m幅が2mほどもある広く大きいものや、プラスチック製で鯨の頭を連想させるような、なめらかな曲面を基調としたカラフルな高さ2mほどのものが数基設置されている。ジャングルジムは一般的に見かける直線構成のものもあるが、カラフルな鉄製の円形と六角形とが組み合わさった変形ジャングルジムもある。全体的に野外遊具類は東洋的というよりは西洋的なイメージが強いものであったことに少し驚かされた。

8. 入園児の募集

中国教育年鑑1995年版（人民教育出版社）によると、1994年の北京市内の幼稚園数は3,301園になっている。中国の新学期は9月である。したがって秋が幼稚園の募集時期である。ただ、「幼稚園暫定規定」では春にも募集することができ、定員に欠員が生じれば、臨時に補充募集をすることもできることになっている。

北海幼稚園は通園区域などを決めないで、全域的に募集をしている。北京市内の他の幼稚園も同様である。特に北海幼稚園の入園希望者は多く、全ての希望者を受け入れる状況ではないと劉汝平副園長から説明があった。もしも、入園できない場合は、他の幼稚園へ入れるよう親が自分で努力して解決しなければならない。日本の幼稚園もそうであるが施設・設備や保育内容の優れている幼稚園に希望者が集中するのは同じである。

全託幼稚園に子供を入園させる親の職業等状況について、白井常「世界の幼児教育・中国」で北京市第5幼稚園の記述があるが「……よく出張する人、交代制で働く夜勤の労働者、医者、家で下調べをしなければならない大学の教授たちなどという。しかし、入園時には、家庭の事情をよく調べてから入れるようにしているとのことである」とある。

北海幼稚園が全託制であることは先に述べたが、ほぼ同様の要素があるものと思われる。

9. クラス編成と教職員

北海幼稚園でのクラスは3歳児から4歳児までを小班といい1クラス単位、4歳児から5歳児までを中班といい1クラス単位、5歳児から6歳児までを大班といい1クラス単位に分けている。小班が5クラス、中班が5クラス、大班が5クラスである。520人の園児数で15クラスとのことであるから、平均すると1クラスあたり35人前後の数となる。

教員配置は1クラスに4人の先生を組み合わせているが、午前7時から午後1時まで2人、午後12時30分から午後8時30分まで2人が担当し、その後は4人の先生とは別に寮担当の夜間保育担当者と交代する。4人の先生の内訳は教員2人と保育員2人である。教員有資格者は師範大学の幼児教育学部または幼児師範大学の卒業生であり、短期大学以上の学歴をもっている。教員はクラスの教育活動に全面的な責任を負う。保育員は特に専門的資格を必要としないが、短期大学の卒業者で保育に関する研修を受けなければならない。保育員は衛生や生活管理面の責任をもつ。

10. 教育目的・活動

基本的な教育目的は1979年公布された国の「幼稚園教育条令」で決められており、北海幼稚園もこれに則って保育が行われている。他の幼稚園も同じである。言語、常識（平易な自然科学）、計算、音楽、美術、体育、徳育などが保育活動領域である。北海幼稚園では具体的な保育目的として次のことをあげている。「各領域のカリキュラムを設け、授業は主に遊戯の形で進め、各種有益な活動を行って、園児たちに初歩的な思想品性教育を施し、団結、友愛、誠実、勇敢および礼儀正しく、規律を守るなどの優良な品性をつちかっている」とある。

刘汝平副園長の説明によると、中でも特に最重要視している点は園児たちの健康である。音楽と美術も重点カリキュラムである。遊びを多く取り入れ、遊びの中から園児が健康的に成長できるようにと、教員全員が心がけていることを強調した。また、自然的に成長できるように最大の配慮をし、どうしたら園児が主導性を発揮できるようになるかを現在研究中とのことであった。

その他、将来の情報化社会への対応のために一部コンピュータの基礎的な知識教育や基礎的な英語会話なども導入しているという。また、具体的な父母への対応としては、月末に父母を招き、教育方針や保育活動の説明会を行ったり、保育相談などを行い教員と父母とが一体となって幼児教育を推進する工夫をしている。6月1日の児童節には父母を招いてスポーツ運動会を行い、園児の活動を観てもらっている。

11. 音楽と美術の保育活動

北海幼稚園の保育活動では音楽遊戯と美術制作活動を視察することができたが、主な内容は次のとおりである。

音楽遊戯活動では教室（写真4）に入ると同時に中班（4歳児～5歳児）の園児（約30人）が先生のピアノに合わせて元気よく「結んで開いて」を演技してくれた。終わると一斉に大きな声で「ニーハオ」とあいさつしてくれた。次に「幸せなら手をたたこう」を中国語で唄ってくれる。引き続き、また歌を唄うが日本の曲ではない。通訳に聞くと「お互いに助合ましょう」という内容の歌とのことである。歌が終わると、真っ赤な衣装を着けた6人の園児が教室中央で可愛い遊戯を見せてくれる。カセットテープから流れる曲は洋楽で優しく美しいメロディである。女子園児のしぐさが何とも愛くるしい。次に拳法スタイルの衣装を着けた男女合わせて6人の園児が、勇ましい中国音楽に合わせて、拳法の型を取り入れた遊戯を見せてくれる。それぞれ真剣な眼差しで迫力ある動きである。これが終わると今度は園児全員が中央に出てきて軽快な曲の歌に合わせてダンスが始まった。内容を聞くと「友達をさがしましょう」とのこと、我々も誘われて園児の輪の中に入った。園児は人なつこく、気後れしないで相手をしてくれる。楽しく、和やかな空気が教室内いっぱいにあふれた。この教室での歌や遊戯は我々を歓迎するためにあらかじめ用意されていたようであったが、音楽に力を入れている北海幼稚園の一端を興味深く見ることができた。

美術制作活動では教室に入ると、写真9のように大班（5歳児～6歳児）の園児たち（32人）



写真 9 美術制作活動中の先生と園児

が2人の先生の指導のもとで、4テーブルに分かれて熱心に作業中であった。1テーブルに園児が8人ずつ座っている。注目した点は4テーブルごとに作業内容が異なっていることである。①折紙のグループ②貼り絵のグループ③描画のグループ④粘土細工のグループが同時進行で作業を展開している。2人の先生は①②担当と③④担当とに分かれてこまめにテーブルを机間巡視をしている。「折紙」はやっこ、はかま、

せみ、二艘舟、だまし舟など日本での折紙と同じ折り方、同じ形である。「貼り絵」は19 cm×26 cm 大の画用紙に色紙をはさみで切ったり、ちぎったりした形を糊で貼りつけている。題材は花であるがチューリップやひまわりなど様々である。「描画」は26.5 cm×38.5 cm 大の画用紙に京劇の仮面を題材にして、それぞれ仮面の形を線描きして水性カラーフェルトペン（中太）で彩色している。配色や塗り方などは園児の自主的な判断にまかせている。園児はのびのびと作業をしている。「粘土細工」はカラーゴム粘土を使い、プラスチックの幾何形体へのはめ込み作業である。手抜き技術と粘土の質感を楽しむことに指導の重点を置いているとのことである。4グループに分かれた園児が生き生きとした表情で楽しそうに制作しているのが印象的であった。ここでも、美術に力を入れている取り組みの一端を興味深く見ることができた。

12. 一日の保育活動の流れ

北海幼稚園の一日の保育活動の流れと内容は次のとおりである。

- | | |
|-------------|--|
| 7:00 | 起床する。 |
| 7:00～8:00 | 起きたら自分で着衣し、歯磨き、洗面をする。それが終わると労働時間になる。内容は布団を畳んだり、部屋の掃除をするなど。
労働時間が終わると、あとは自由時間になる。先生と園児は部屋を出て、一緒に体操をしたりスポーツをする。 |
| 8:00～9:00 | 朝食をとる。朝食後はホールで遊びを中心の自由時間になる。 |
| 9:00～10:00 | 授業の時間(設定保育)になる。授業の時間は年齢別によって、長さが違っている。小班(3歳児～4歳児)は20分程度、中班(4歳児～5歳児)は20分から30分程度、大班(5歳児～6歳児)は30分から35分程度の時間になる。 |
| 10:00～11:30 | 体操をする。終わると各クラスに分かれて、いろいろな活動を行う。 |
| 11:30～14:30 | 昼食をとる。昼食後は自由時間になる。排泄などを済ませて午睡になる。(年齢の大きい園児は午後2時、小さい園児は2時30分に起きる)起きると朝と同様に布団を畳んで、掃除をする。 |
| 14:30～16:30 | 授業(設定保育)や遊戯を行う。 |

- 17:00～19:00 夕食をとる。夕食後は主に室内遊びの時間になる。テレビを見たり、ラジオを聞いたりする。午後7時に間食をする。
- 19:00～20:00 間食後は、歯磨き、洗面をするなど自由時間になる。
- 20:00 自分で足を洗って、就寝する。
- 20:30 先生方が各部屋を巡回する。

13. 給食

全託（全寮制）幼稚園であるので、日常生活において特に健康と栄養管理には最善の注意をはらっている。小児科医師が毎週園児の食事の栄養価を测算し、食堂管理人と一緒に食物を調整している。園児の食事は調理室でまとめて調理をして、各教室に運び、そこで食事をする事になっている。なお、教職員は大食堂で食事をする事になっている。

14. 障害児の就園

現在、北海幼稚園では障害をもつ子供は収容していない。以前に5年間くらい、試みとして障害児を収容したことがあるが、いろいろと不便なところや不都合(具体的な説明はなかった)もあり止めたとのことである。止めた理由の一つに国で障害児を専門に収容する大きな特殊幼稚園を創ったことをあげていた。その幼稚園名は「北京市西城区育紅幼稚園」という。

15. 一人っ子の問題

宏庙小学の場合もほとんどが一人っ子であるように、北海幼稚園もほとんどが一人っ子である。園で開催する父母を対象とした保育相談会で、一番多い質問は一人っ子にどんな教育の工夫が必要かという問題であるという。一人っ子の一般的な傾向としては「他人のことを考えない我儘な子供に育っている」ことが指摘されている。園としては園児が自分自身で生活する能力や普通の生活習慣を身につけさせるように研究と工夫を続けているとのことである。父母には子供を甘やかしたり、過保護にならないように強く訴えているとのことである。

III 今日の中国における学前教育〈幼稚園〉の概観

1. 幼稚園教育の概要

(1) 幼稚園教育の任務

1979年に公布された国の「幼稚園教育条令」で、幼稚園の任務について、次のように定められている。

幼稚園は3歳児から6歳児の幼児に対し、学齢前の教育を行う機構である。幼稚園の任務は、幼児に対して初歩的な前面発達の教育を行うこと、幼児を健康的に、また活動的に成長させ小学校入学のための基礎をつくることである。

(2) 幼稚園の所管

3歳児から6歳児までの幼児を保育する学前教育施設を「幼稚園」という。幼稚園は最終的には中央の教育委員会（日本でいう文部省）に管轄されている。運営母体は①教育委員会立②非教育委員会立③民間立④私立の4種類に分かれる。なお、この4種類は次の表のように公営

と民営の二つに分けられる。

運 営 母 体		内 容
公営	教育委員会立	教育委員会系統が直接運営費を出して経営する場合。
	非教育委員会立	国営の政府機関、解放軍部隊、学校、工場、鉱山、企業、事業体が福祉費より出費して運営する場合。この福祉費は国でまかなう。
民営	民間立	民営の団体、たとえば市ならば街道、農村ならば人民公社、生産大隊などが運営し、国庫補助をうけない場合。
	私立	民間の個人または個人団体が運営する場合で、1982年から許可になった。私立幼稚園は必ず名称の頭に「私立」の2字を加えなければならない。

(2) 幼稚園教育の目的

同じく「幼稚園教育条令」で、幼稚園の目的について、次のように定められている。

① 養護と教育という二重の目的を統合し、生活、遊び、学習をうまく組織すること。

② 幼児の保育と婦人の育児労働からの解放という二重の目標に向かって遂行すること。

(a)社会主義の自覚と教養とを身につけた労働者を養成すること。(b)子供の保育面での親の負担を軽くし、親が安心して生産、政治活動、学習のできるようにすること。

以上の2つが基礎目的で、そのために以下の点を重視する。

③ 健全な心と心身の発達を促進すること。

(a)よい生活習慣、衛生習慣を身につけること。(b)体育、運動面に留意して、鍛練をとおして抵抗力を身につけること。

④ 知的能力を発達させること。

(a)注意力、観察力、記憶力、想像力、思考力、表現力を発達させること。

⑤ 道徳教育を行うこと。

(a)祖国、人民、労働、科学、公共財産に対する五愛を育てること。(b)誠実、勇敢、団結、友愛、活発、規律の厳守、礼儀正さなどを身につけること。

⑥ 芸術心のかん養

(a)音楽、美術、ダンスを通して芸術心を育てること。

(3) 幼稚園教育の内容

1981年に発表された国の「幼稚園教育綱要」で、幼稚園の教育内容について、次のように定められている。

生活衛生習慣、徳育、体育、言語、常識、計算、音楽、美術の八つの領域の教育を施す。教育方法としては、遊戯、体育、授業、観察、労働、娯楽や日常生活等の各種の活動を用いる。合わせて幼稚園教育の小学校化あるいは成人化を防止すべきである。

(4) 各領域の任務

現在、中国の幼稚園教員養成校が使用している学前教育関係教科書では、各領域の教育任務

について次のように述べられている。

- ① 生活衛生習慣…わかりやすい生活常識を幼児に教えて幼児の集中力，観察力，記憶力，思考力，想像力，言語の表現力を発展させて，勉強への興味と知識欲を育てあげる。また，幼児の栄養に注意して丈夫な体格を鍛えて幼児の発育と健康を保障する。
- ② 徳育…幼児に祖国，人民，労働，科学を愛し，公共物を愛護する，いわゆる五愛の教育を施して，幼児の団結，友愛，誠実，勇敢，困難の克服，礼儀，規律を守るなどの情操，明るい性格を育てあげる。
- ③ 体育…幼児の身体を鍛え，正常発達を促して自然環境に適応する能力を高める。幼児の基本動作を発展させ，きびきびした動作や正しい姿勢を指導する。機知，勇敢，規律を守る性格を育てあげる。
- ④ 言語…幼児に明確な正しい発音と標準語を教える。幼児の言葉を豊にし，思考と言語の表現力を発展させる。幼児に文学作品への興味を育てあげる。なお，少数民族の幼児に自民族の言葉を教える。
- ⑤ 常識…社会と自然の簡単な知識を豊かにして，幼児の視野を広げる。幼児に社会と大自然を認知する興味と知識欲を育てあげて，身の回りの人たちや出来事に対して正しい判断を下せるように指導する。幼児の集中力，観察力，記憶力，想像力，思考力と言語表現力を発展する。
- ⑥ 計算…幼児に 10 以内数字概念と加減法，幾何図形，時間，空間などの簡単な知識を教える。幼児に計算に対する興味をもたせ，ロジックの能力を発展させて，幼児の思考の正確性，融通性，敏活性を育てあげる。
- ⑦ 音楽…歌，踊りなどを簡単に幼児に教える。幼児の音楽，踊りに対する興味とリズム感を育てあげる。幼児の音楽に対しての感受力，記憶力，想像力，表現力を育てあげ品性と性情を陶冶する。
- ⑧ 美術…幼児がものの形，色，仕組みを認知するために，絵や工作を通して幼児自身の身の回りの世界への感情と認知力を育てあげる。幼児に美術品，大自然と社会生活への観察力，想像力，創造力および基本動作を発展させる。美術工具と各種材料が使えるように教育する。

IV 文化事情視察・第 1 回中国油画学会展の概要

1. 第 1 回中国油画学会展視察の経緯

1996 年 9 月 10 日，我々は北京市内の文化事情視察の目的でパンダで有名な北京動物園，石だけの遺蹟品を収集している世界でも珍しい石刻博物館，1150 年に金の皇帝の離宮として造られた 728 m の長廊と豪華な建物が配置されている頤和園^{いわえん}の見学を終えて，午後 2 時 20 分頃中国美術館に着いた。天安門近くにあるこの美術館は 4 階建ての鉄筋コンクリート造りで，一見東京の国立博物館を思い起すイメージの建物である。すぐ目に入ったのは美術館正面に掲げられ



写真 10 中国美術館の看板を背にして。右から藤原、白佐、野崎

ていた大きな「第 1 回中国油画学会展」の看板である（写真 10）。30 度近くある暑い日であったが入り口玄関付近は多くの人であふれている。聞いてみると、午後 3 時にこの展覧会の開会式セレモニーのテープカットがあるという。全く偶然であるが、中国現代美術界にとって記念すべき展覧会の開会式に参加することになったのである。同行者の一人・野崎は油絵を専門とする画家でもあり、文化事情視察の観点から

も訪中期間中に機会があれば中国の現代美術の動向についても触れてみたい希望を強くもっていたので、この美術展は絶好の研修の場となった。

2. 中国油画学会設立主旨等

この学会は 1995 年 11 月、北京で結成されている。学会設立の主旨は「中国の油画の芸術性と学術性を高めながら〈誠心誠意、現実に関心をもち、民族精神、多様な模索〉という芸術の環境を創ることにある」としている。中国油画学会の詹建俊^{ジャンジェンジュン}主席（会長）は作品集のあいさつの中で「我が国の油画の画家たちは 100 年近い実践を通じて、著しい実績をあげてきたが、東洋と西洋の二つの文化体系に対立と統一という問題があり、中国の独特な油画を描くことがこれからの課題である。この度の初の中国油画学会展は本学会にとって、画期的な意義をもっている。一つは全国の油画のレベルと現状が表れること、二つ目はこれからの学術研究のために参考になることである。中国の画家たちは現実に基づいて、粘り強く頑張れば必ず新しい頂点にたどりつくことを信じている」と述べている。

3. 出品点数・作品傾向分類

この第 1 回中国油画学会展に出品されている作品は、1,000 人余りの中国油画画家の作品から詹建俊主席を含め 18 名で構成した評選委員会で選定（入選）したものである。なお、18 人の評選委員のうち、この展覧会に詹建俊主席を含めて 13 人（具象系 10 人、抽象系 3 人）が出品している

作品は小さいもので 100 号大から 300 号大の大作まで総数 214 点が展示されている。展示作品は圧倒的に具象系作品が多く 170 点である。表現技術や内容は多様であるが、さらに題材を分類すると人物を題材にした作品が 90 点、風景を題材にした作品が 45 点、静物を題材にした作品が 17 点、その他の題材作品が 18 点である。この中で古典写実や写真写実に近い表現様式で描いている作品が 44 点あったことは特に注目した。抽象系（表現上）作品は 35 点である。抽象系作品の傾向としては昭和 30 年代から 40 年代にかけて世界的に流行した「熱い抽象絵画」を連想させる作品が多い印象を受けた。

4. 出品画家の年齢と性別

20 代が 15 人で、うち女性画家は 3 人であり、平均年齢は 26.1 歳である。30 代が出品者の中

では最も多い 101 人で、うち女性画家は 13 人であり、平均年齢は 35 歳である。40 代が 42 人で、うち女性画家は 3 人であり、平均年齢は 43 歳である。50 代が 26 人で、うち女性画家は 2 人であり、平均年齢は 54.9 歳である。60 代が 21 人で、うち女性画家は 1 人であり、平均年齢は 63.5 歳である。70 代が 6 人であり、女性画家はいない。平均年齢は 73.8 歳である。80 代は最も少なく 2 人であり、女性画家はいない。以上のデータは作品集の画家略歴からのまとめであるが未記入者が 1 人あり、その分は不明なため除いてある。出品者で一番若い画家は 22 歳で、最年長者は 82 歳であった。出品者の多い年代をみると① 30 代② 40 代③ 50 代④ 60 代⑤ 20 代⑥ 70 代⑦ 80 代の順になる。女性画家は全体で 22 人である。

5. 油画学会展について（邵大箴^{シャオーダヂェン}評選委員の記述の要旨から）

作品集に寄せた邵大箴評選委員の「斬新的に 21 世紀への歩み」〈第 1 回中国油画学会展の感想〉の一文が、現在の中国油画美術の動向・現況についての的確に述べていると思われるのでその要旨を紹介する。なお、小見出しについては本文にはなかったが、我々が内容の整理上付けたものであることをお断わりしておく。

(1) 改革開放後の中国油画

油画に対する芸術観と社会実践は改革開放とともに、初めて中国に新しい変化をもたらした。中国の油画は国民の中で重要な位置を占めるようになった。

油画の中心は西洋にあるといわれ、経済途上国の中国油画は〈時代遅れ〉〈中心離れ〉であるが、我が国には風俗画や古典写実などの傑作は少なくない。油画は技術でもあり、芸術でもある。つまり、油画技術で理念と感情を表出する芸術である。中国の伝統的な文化と結びついて、中国風の油画を創造して油画界に新しい生命力を注ぐのが我々の仕事である。理念と感情を表現する芸術として、油画の技術はもっと上達するべきである。ピカソ、マチス、ドラクロワ、ポロックなどが油画のゴールであるはずがない。

20 世紀の中国で油画が活躍できるのは、中国の伝統と文化に基づいて描かれたからである。1930 年代から 60 年間、我が国の油画には技術面の不足があったかもしれないが、作品には画家たちの個性、知恵、素養を含んで、その時代の感性、趣味、物の見方などを表現してきた。

(2) 中国油画・作家の現況と抱負

今、中国の第三代、四代、五代の画家たちが全国各地で活躍している。三代目の画家たちは各流派の代表として歴史に続く土台の役割を果たしている。四代目、五代目の画家たちは先達が歩んだ道を辿りながら新しい道を進んでいる。中国の油画は写実主義を重んじるが、内容は古典写実、風俗写実、幻想写実、ロマン写実、写真写実に分かれている。視点の単一から多元的になるのが中国油画の進歩のシンボルである。したがって、今、中国油画の現状は写実よりいろいろな理念を含んでいる具象画が活躍している。多様な材料を利用して、油画の表現力が一層豊かになっている。画家にしる鑑賞者にしる、絵の内容と様式を分けていけないことが明らかになってきた。今、芸術家たちは表現手段と様式に力を入れている。1987 年〈第 1 回中国油画展〉が開催され、10 年が経過して我が国の油画界に大きな変化が起こった。それは、たく

さんの作品から画家の真実の感情が見えてきたこと、また目で観察したものを心で描きだしたことである。いうまでもなく、閉鎖状態と狭隘の民族意識では画が発展するわけがない。西洋の伝統と現代民族文化を含む東洋の過去と現代の諸々の要素が中国の油画の源である。油画は人類が生きている環境と現実生活に関わるコミュニケーションの手段である。したがって、わざと、中国の油画なしい芸術を世界の動きから離してはならないのである。現在、西洋の芸術が世界をリードしているから、我々がその仲間に入れてもらえれば世界的な成功ができるという考えは、あまりにも単純だと思う。西洋の何百年の文化の歴史・伝統を参考にしながら、我が国の芸術を発展させるべきである。西洋の経験と教訓のお陰で、我々は回り道を避けることができた。この10年間、我々は徐々に西洋の模倣から離れていき、中国風の油画をめざしてきた。民族伝統という概念はとても複雑で広い意味をもつ。伝統を受け継ぐことは、伝統の中の神髄を受け継ぐということである。作品は時代によって表現手段が異なる。新世紀以来、伝統感覚が漂う作品が出てきた。これは、とてもありがたいことである。写実油画は形より内容を重んじる。表現性と抽象性の作品は技術と画家の感情を溶かし合わせるものである。今後は、国際的に高く評価され、伝統文化のもつ、大ぶりの格調高い作品を期待したい。

(3) 今後の課題

「どうすれば、芸術作品と芸術作品の精神性問題を解決するか」ということが今後の我々の課題である。画家自身は精神面が乏しくても、技術、表現手段、様式だけを重んじるようになる。もっと正直に言えば、精神面が乏しくて、外面的な手段で内容の虚しさを覆い隠すことである。これは写実油画だけではなく、具象油画と抽象油画にも存在している問題でもある。この問題にはいろいろな原因がある。一つは画家は世間（鑑賞者）に媚びるからである。二つ目は芸術の本質が分かっていないからである。珍しい様式ばかりにこだわって、自分自身の心の感情につながっていないからである。芸術は技術の表現にありそうに見えるが、実は画家が客観世界に対しての感情の反応であり、自分自身の人格、知恵、悟性などの映しなのである。芸術家にとって、技術はもちろん現実と人生への理解の要素を高めることは重要なことである。この度の作品には、作者が描かれた人物や事物への理解は不十分だという問題が内在している。今、活躍している若い画家たちに注意をしておきたい。まず第一点の一つの様式にこだわりすぎないことで、作品に新しい生命力を注ぐこと。第二点は自分らしい芸術のスタイルが成熟しないうちに、変化をあせらないことである。

この展覧会を機に我が国は自信をもちながら斬新的に21世紀に向かっていくことを実感したいと思う。

6. 鑑賞の感想

1977年夏に文化大革命が終わって、ほぼ20年が経過したが中国の現代美術の動向や現況について日本への情報は少なく、中国現代油画画家の大規模な展覧会が日本で開催されることはほとんどない。特に札幌では我々の知るところ開催はない。韓国の現代画家（抽象系）との合同美術展や画家同志の交流は札幌を中心とした画家で10数年前から札幌とソウルで活発に行

われきた経緯があり、同行者の一人・野崎はそれに参加してきた。したがって、韓国の現代美術の勢いが加速度的に進展している状況や世界的に活躍している画家が多くいることについては、ある程度熟知している。しかし、韓国と同じ隣国でありながら中国の現代美術については、全く知識がないのと同然であった。

この度、中国研修旅行中に偶然にも「中国油画学会展」を鑑賞する好機に恵まれたので会場で作品に触れた感想を率直に述べてみたい。作品の傾向や画家の年齢構成などは先に述べたとおりであるが、まず、会場に入って驚かされたのは具象系作品、抽象系作品を含め実に多様な表現内容と技術を内蔵した展覧会であるということである。一般的に中国画というと水墨画が主流というイメージをもっていたが、そのイメージは瞬時に吹き飛んでしまった。我々の勉強不足もあるが、正直いって、こんなにも中国に油画が普及しているとは思ってもよらなかったからである。特に出品数は少ないが抽象系作品には構成力の骨格の太さや素材、技法などに注目することができた。中でも堅牢なマチエールとほとぼしりであるような情感を押し出して自己の世界を素直に表出した^{ファングォルイ}黄国瑞の作品『軽度烧伤』〈軽い火傷の意味〉(写真11)がよかった。また、スーパーレアリズム系の写実油画の作品には確かなデッサン力と構築力に注目することができた。中でも乾草と澄んだ青空を背景に防寒コートを着た男性の生活感や表情を内面からえぐるように精密描写した^{ヂョンイー}郑艺の作品『馳騁的心』〈馳せている心の意味〉(写真12)がよかった。1930年代の先達画家が取り組んできた経緯や背景は、作品集の解説で初めて理解ができたが、ここに至るまでの60年間の粘り強い制作思考や実践活動が確実な形で20代、30代、40代の若い世代の画家へ連結した証左であろう。しかし、評選委員の邵大箴が若い世代へ警鐘として指摘した課題も強く感じることができた。技術や様式にこだわり過ぎて画家の個性が埋没している作品も目についたからである。世界の現代美術の潮流はかなり早いテンポで進展しているが、この展覧会が発散する熱く燃え上がるようなエネルギーから判断すると、そう遅くない時期に中国現代美術が世界の潮流に合流することは間違いないと実感することができた。

V お わ り に

我々が北海幼稚園を訪問したのは、曇り模様の9月13日の午前中であった。金曜日で父母が



写真11 黄国瑞の抽象画作品「軽度烧伤」
180 cm×160 cm 1996



写真12 郑艺の写実画作品「馳騁的心」162 cm×130 cm 1996

子供を迎えにくる日でもあり、それらの対応で本務多忙な中ではあったが公務で留守のルーシャンシャン^{ル-シャンシャン}園長に代わって、刘汝平副園長はじめ3人のベテラン先生が貴重な時間を割いて、心から歓迎の意を表して園の説明と施設の案内をしてくださった。園舎では保育中の二つの教室やホール、ベッドルーム、野外では園庭、グラウンド、遊具施設などを巡りながら親切に我々の質問に答えてくれた。教室では先生と園児が音楽や遊戯で可愛い歓迎ぶりをみせてくれた。特に美術制作活動の教室では、園児の折紙や貼り絵、京劇の仮面を描いた素敵な作品をプレゼントしてくれた。これらは、学生への教材として大切に使用してもらうつもりでいる。園をあげて鄭重に対応してくださった刘汝平副園長はじめ関係先生に心から感謝とお礼を申し上げたい。

また、中国美術館を訪問したのは、晴天の暑い9月10日の午後であった。北京市内の文化施設訪問は事前に予定を組んではいたが、先に述べたとおり「第1回中国油画学会展」は全く予想していなかったものであり、記念すべき開会式セレモニーに偶然参加できたことは大きな収穫であった。中国の現代油画美術を鑑賞する好機に恵まれたことを心から嬉しく思っている。帰国後、ガイド・通訳の杜建春^{ドゥジャンチュン}さんには北海幼稚園や中国の幼稚園事情についての追加資料の収集をお願いしたが、快く引き受けて関係資料を送ってくださった。ご協力に心から感謝とお礼を申し上げたい。なお、「第1回中国油画学会展」作品集の解説文や幼稚園教員養成校で学生が使用している学前教育に関する教科書などの資料の翻訳は、北海道教育大学岩見沢校に中国から留学している韓冬^{ハンドン}（女性）さんにご協力をお願いした。心から感謝とお礼を申し上げたい。

最後に、今回の中国研修旅行をご支援くださった学内外関係者の皆さんに、あらためて感謝とお礼を述べて、結びとしたい。(1997.6.30)

参考・引用文献

- 1) 白井 常：世界の幼児教育 幼稚園・保育園・保育所シリーズ 11, 中国 丸善メイツ株式会社, 1983.11
- 2) 根橋正一：近代化中国における幼児教育の現状, 武蔵野短大研究紀要2 韻, 1985.6
- 3) 森山久子：中国の幼児教育の現状, 香蘭女子短大研究紀要, 38号, 1996.2
- 4) 中国教育年鑑 1995, 人民教育出版社, 1995
- 5) 第1回中国油画学会展作品集, 广西美術出版社, 1996.8
- 6) 黄人頌主編：学前教育学, 人民教育出版教, 1996.3